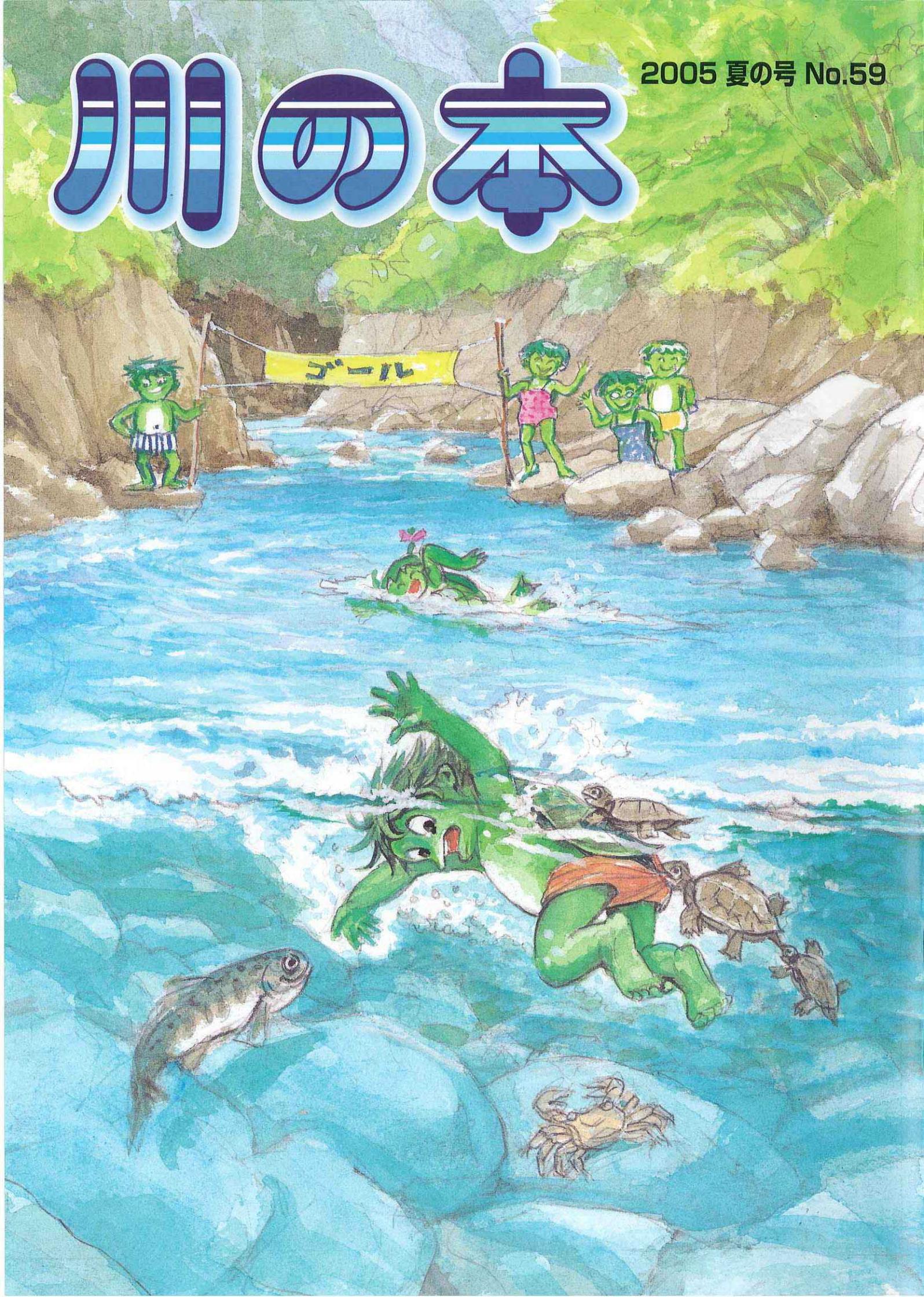


2005 夏の号 No.59

川の本



KAPPA no GAKKO

川のビオトープ

川のビオトープとは、その地形や気候に合った野生の生きもの、魚や鳥、カニやエビ、昆虫たち、川原の草や木などが、きもちよく暮らせる場所のことだよ。

川の工事でも、つぎのようなことをしているんだ。

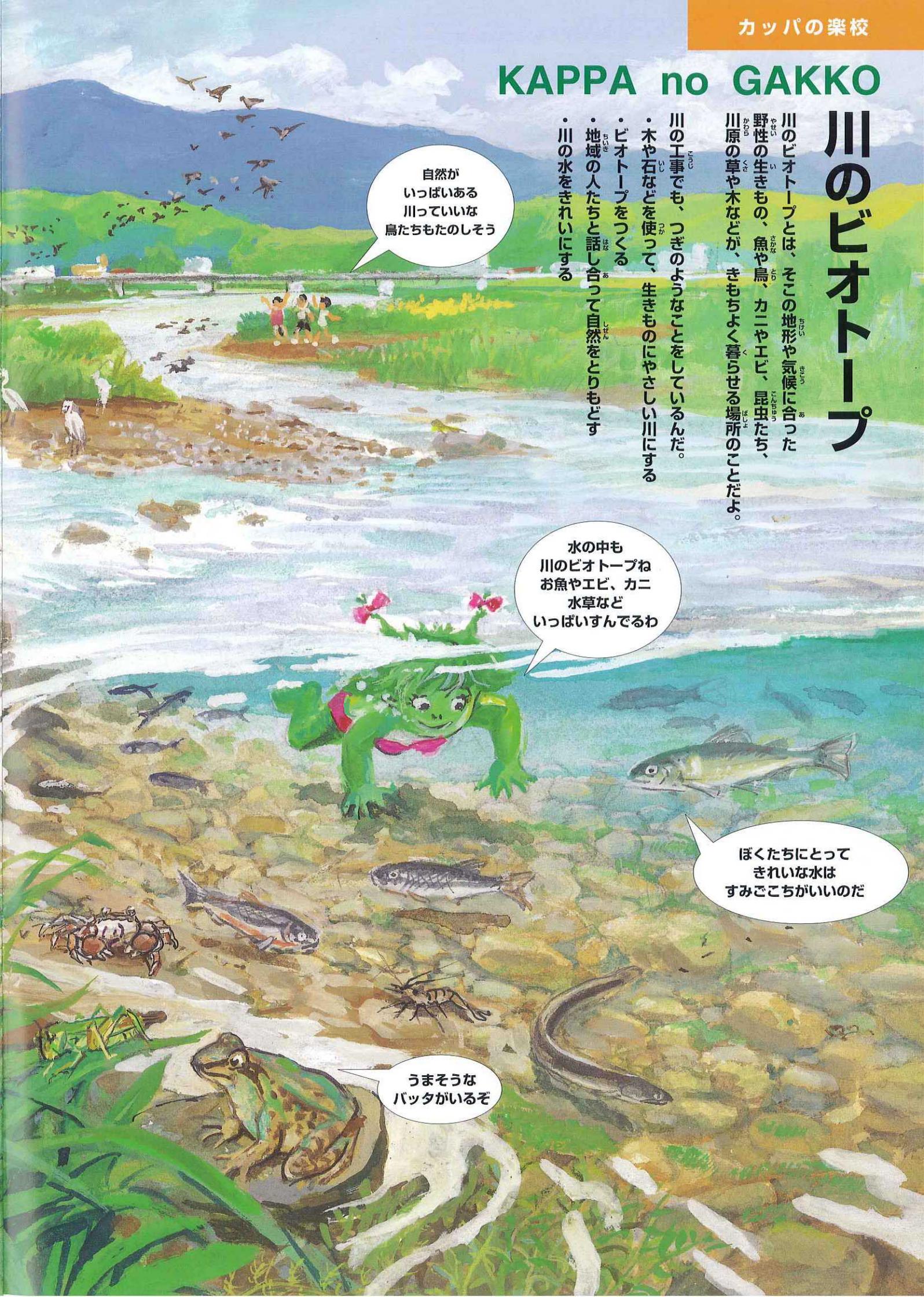
- ・木や石などを使って、生きものにやさしい川にする
- ・ビオトープをつくる
- ・地域の人たちと話し合って自然をとりもどす
- ・川の水をきれいにする

自然が
いっぱいある
川っていいな
鳥たちもたのしそう

水の中も
川のビオトープね
お魚やエビ、カニ
水草など
いっぱいすんでるわ

ぼくたちにとって
きれいな水は
すみごちがいいのだ

うまさうな
バッタがいるぞ





ここは中流部だけど
川の生きものの中には
上流にしかすめないもの、
中流や下流がすきなものもある。
川にはそれぞれのビオトープが
あって、すみわけをして
いるんだよ

川に魚がいるかぎり
オレさまはのびのびくらせる
うまさうな魚がいるぞ
こっちへこい

ヒナさんたち
もうすぐお母さんがエサを
はこんできてくれるよ
ここは子そだてにとって
大切な場所なんだね

川のビオトープって
水の中だけじゃない
草むらはこんちゅうたち
の天国さ

はんざき物語

ものがたり

岡山県

旭川

今から400年ほど昔のはなしです。岡山県を流れる旭川の上流に龍頭が淵とよばれる深い淵がありました。まわりには木がおいしげり、無気味なほど静まりかえっています。淵にそって一本の道が細々とつづいていましたが、めったに人が通ることもありません。とある日の淵にはおそろしいうわさがあつたからでした。

「そうなんだ、村のものならだれでも知つておぼえ、あの淵にはな、ほかでかいばけものがすたんとおるのよ」

「そのばけものは、はんざきちゆうてな、淵の底からいきなりあらわれると、でっかい尾をふつてな、人でも牛でも淵にかきこんで、あつというまにのみこむんやてえ」「いゝなうわさがびびがつたのよ、ほんとにも淵のそばなど通れません。川上の村に行くのにも、ひと山もふた山もいして、とおまわりするしかありません。村人たちはたつたつたつておりました。



そんな村人たちのこまったようすを聞いて、村はずれにすむ三井彦四郎という若者が

「はんざきがどんなばけものかしらないが、わしが返治しちゃる」
おどろいたのは村人たちです。

「そりゃ、むちゃじゃ、ひとのみにされるけた」

「ほかな」と、やめとはやめとけ、死にに行くとくううなもんじゃ」

みんなは止めようとしましたが、彦四郎はいつこうに気にするようすもなく淵へとでかいていきました。

淵にやってきた彦四郎は腰にひもをむすび、短刀を口にくわえるとザンブとばかりに淵にとびこんでいきました。そのようすを村人たちは、とおくからおそるおそる見ておりました。ところが、しばらくたつても淵はいつもどおりに静まりかえつたままです。

「こりゃいけんなあ、彦四郎のやつ、はんざきにのみこまれたかもなあ」

「だからやめとけというたんじゃ」

と、村人たちが話しあつているときでした。淵の水面に赤黒い血のようなものがうかびあがつてきたかとおもうと、つづいて大きなはんざきが、うかびあがつてきたのです。

「たいへんじゃ、はんざきがでこきよつたあ」

「ややや、よう見てみい、はんざきが口から血をだして死んだるでえ」

村人たちは大さわぎしながら死んだはんざきをひきあげました。するとはんざきのお腹を内がわから短刀で切りさきながら彦四郎がはだしてきたのです。

「あひやあひやあ、こひやあ、おどろきじゃあ」

「のみこまれてから、はんざき返治すとはなあ、さすが彦四郎じゃ」

「これで淵の道も安心して通れるでえ、ありがたいことじゃ」

彦四郎のはんざき返治はひょうばんになり、ちかくの村々や旅人にまで、かんしゃ



されました。

といつが、いつのがあつてまもなくのいつといつ、村に入んなつわさかたちはじめました。

「この毎晩のいつや 真夜中になるとは彦四郎の家の戸を どんどん どんどんとたたきながら泣きさげがえがするたやてえ」

「だれが泣いてるなや」

「それがな 氣味悪いことと戸をあけてもだれもおらんのやて」

「いよいよわい」

おそれた村人たちは、日が暮れると戸をしつかりしめて、外にでるものはいなくなりました。そして、にぎやかだった彦四郎の家にも、だれもちがなくなりました。おまけに不幸じきさげ、ついで彦四郎一家は死にたえてしまったのです。

そればかりではありません。無気味なことが村にまでおこりはじめたのです。きれいな旭川の流れがわけもなくにごつたり、やはり病いがおこったり、水がかれたり悪いことばかりがいつきます。

「たたりじゃ はんざきのたたりじゃあ」

「あの泣きさげんでいたこえは はんざきの靈じゃったのよ」

村人たちは、はんざきや彦四郎のことはきのとくだとは思っていても、その後なにもしていないことに気がつきました。さっそく村中でそうだし、はんざき大明神の祠をたてまつり、彦四郎の靈もまつってなぐさめました。

いつして村にはやっと平和がもどつてきたのです。

はんざきが棲むという旭川

このお話は岡山県湯原町の伝説を再話したものです。お話の中から、人の勝手に川の生きものをむやみに殺してはならない、大切にしていかねばならないと古昔の人たちの教えを感じさせられるお話でした。

「はんざき」とは、国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオのことです。大きなものでは体長が1メートル以上にもなるといふ世界最大の両生類です。お話のはんざきのように人や牛をのみこむようなオオサンショウウオなていませんが、もともと生命力がつよく、なかには100年も生きるものもいるのです。



「はんざき」という地元の呼び名には、身体を半分さかされても生きていたとか、大きな口をあけると身体が半分さけたように見えるから、などの説があります。生きた化石ともいわれるほどのオオサンショウウオですが、その数は減っています。オオサンショウウオが生きてゆける川の自然が少なくなっているからでしょうか。旭川は長さ14キロメートル、岡山県で一番大きな川ですが、その上流部湯原町あたりはオオサンショウウオの生息地として有名なところ、町の「はんざきセンター」ではオオサンショウウオをみるこががびでます。また「はんざき大明神」の祠もあり毎年8月の田には「はんざき祭」がおこなわれています。

夏の川であそぼう

およいだり、もぐったり、カヌーをしたり、

水あそびもおもしろいけれど

川あそびはそれだけじゃない。

鳥を観察したりさえずりを聞いたり、

めずらしい草花にであったり、

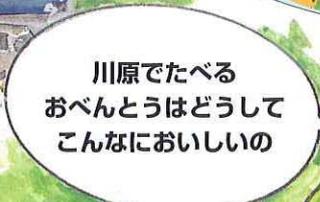
石がごろごろした川原をあそぶだけでも

たのしい。

さあ夏の川へでかけよう。



花をつんでは
かわいそうだから
しゃんをとって
おくわ



川原でたべる
おべんとうはどうして
こんなにおいしいの



カヌー教室
たのしかったよ
教室では用具もかして
くれるよ



わあ～
ちかくで見ると
でかいなあ



植物やこんちゅうも
しらべたから
夏休みの自由研究は
バッチリよ



川へ行くときの注意

こわい急な増水



●川であそんでいるところが晴れていても、
川の上流で大雨がふったりすると急に川の水
がふえたり、土砂くずれがおこって、鉄砲水
がおしよせたりすることがあるよ。

●ダムからの放流で、急に川の水がふえると
きがある。そのときはサイレンがなったり、
係りの人が知らせてくれたりするので注意し
よう。



川を知って安全にあそぼう

にげ場のないところに
テントをはるのはキケン



テントをはるときは
安全なところに行こう

水についたら
ひえきらないうちに
体をあたためよう
また日射病にも
気をつけよう



しっかり見て
あとでしらべてね
わたしはキセキレイよ



川をわたるときは
上流にむかって
ななめにすすむのがコツ



わたしは
バードウォッチング
なんしゆるいの鳥を
見つけれられるかしら



つり糸などは
すててはいけない
鳥がけがをする



ぼくは流木アートだ
この流木
ワニみたいでしょ

せきのあたりで
およぐのはキケン



●川には危険なところや近づいてはいけない場所があるんだ。危険や注意を知らせるカンバンを目にしたら気をつけてよく見ておこう。
●川の自然をあらさない、よごさないことが生きものたちのためになるんだ。そのためにもゴミはかならずもちかえろう。

天気は今ではケイタイ電話でも
知ることができるんだって、
知っていた？



イシガメ (カメ目イシガメ科)



イシガメは日本にしかない(日本固有種)なので別名ニホンイシガメともいわれます。メスはオスより大きくなります。甲羅の長さはオスは13センチくらい、メスは18センチくらいがふつうです。甲羅の中央に一本だけ隆起があり、うしろのふちはぎざぎざしています。色は茶褐色っぽいのですがお腹の部分は黒色です。

低い山の上流部から中流あたりにかけての川や池、沼地、田んぼなどで見かけることができます。特に春や秋には、水からでて日光浴をするのが大好きなので見つけやすいはずですよ。

食べものは、藻や水草、魚、昆虫、ちいさなカニなどいろんなものを食べています。水がつめたくなる冬は、水中の横穴やつもった落ち葉のしたにもぐりこんで越冬します。

ところで、手のひらにのるような小さなゼニガメって知っているでしょう、じつはイシガメのこどもなんですよ。それにもうひとつ、寒いのがにがてらしく北海道にはいません。

河川愛護月間

[7月1日→31日・7月7日は川の日です]

～水辺にやすらぎ心にゆとり～



財団法人 河川環境管理財団

Foundation of River & Watershed Environment Management

(〒104-0042) 東京都中央区入船1丁目9番12号
TEL (03) 3297-2600 (代表) <http://www.kasen.or.jp/>

移転のご案内

7月上旬に下記の住所に移転を予定しています。

(〒103-0001) 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル (2F、3F)
TEL (03) 5847-8302 (企画調整部) <http://www.kasen.or.jp/>